

## 1ヶ月の牧師休暇

賈 晶淳

先ず、教会員以外のろばの読者には説明を差し上げる必要があるだろう。百人町教会は牧師に8月の1ヶ月間を休暇としている。他の教会の事情は把握していないが大体的場合は2週間以内ではないかと思う。特別な目的や理由があつてのことではない。自由な時間を与えるためであると思うが、私自身としては充電の機会として使っている。欧米教会が導入しているサバティカル休暇は実質的に導入し難い日本の教会ではこの方法が最もお勧めできるのではないかと個人的には思っている。今回は編集委員会に頼まれたこともあり、プライベートな休暇であるが今回に限ってのことでご紹介したい。

8月に入ってから我が家は私独りとなり、孤島化した。ある文筆家のように避暑地の旅館へわざわざ出かける必要もなく、お家で悠々自適に過ごす事ができる。誰にも邪魔されない静かな家で、外は暑いのでなるべく出かけないようにする。そのため炊事もまるでサバイバルに似て、買い物はほとんどしないで冷蔵・冷凍庫の残り物を奇麗にすることを目標に、おかず等の料理は材料に合わせて作る。直ぐなくなる牛乳などは一階にあるファミリーマートから調達する。結果、冷蔵庫の中はほぼ空っぽとなった。

趣味といえることはないが、強いて言えばドライブか読書が一番楽しみ。ただドライブはガソリンの値段が高くなってから相当控えている。休暇だからどこかの人ごみの海辺や山に行くのは大嫌い。今年の夏はロンドン・オリンピックが開かれ良かったのではないかと聞かれる。全く興味がなくて見していない。何より読書、自分の限らない無知の知覚と学習の無限な可能性に耽るのが好き。普段より早く寝起きして読書に励む。どんな本を読んでいるかといえば、自分も分からない難しい本をいっぱい読んでいる。分からなくても読む。何時か分かる時がくるだろうと思いつつ。片方では字引に手が頻繁に行く。知らない単語や述語を見つけるのが楽しみ。読み物の中には古典が多い。最近出会ったイタリア人ジョルジョ・アガンベンは面白い。処女作で、芸術論である『中味のない人間』、代表作である『ホモ・サケル』他。読書は私にとって娯楽であり、修行でもある。継続は力であることを念頭にこの30年間絶え間なくやってきた。聖書を読むのも好きであるが、どんな読み物でも私にとっては聖書となる。世界を認識させ、全ての出会いを深めてくれる。そして、時間と空間と次元を超え飛び回る旅でもある。日曜日の礼拝はどうするの。別の教会でも。知り合いがいる教会に行くのは何だか嫌な気がする。それにどこから来たのかなど聞かれたくもない。やはり慣れている自分の教会が一番。それに週報も作っているし。

他にもいろんなことをした。彼女の実家の行事もあり上旬の3泊4日間濟州島へ。戻ってからは第9回日韓青少合同修養会のパンフレットや説教文の翻訳に取りかかり、子供達の成田までのポーターとしての送り迎え。修養会全日程の参加。その間に前期授業の採点もあり、締め切りのぎりぎりまで提出する。一番嫌な作業だ。読書ばかりすると頭もおかしくなるので、時々教会の残りの仕事、例えば、教会記録の整理、永眠者の写真作り、ホーム・ページの韓国語訳の書き直し、「ろば」のバッグナンバーの読み直し等等。

お出かけは、8月15日早朝の千鳥ヶ淵でのNCC集会に出席し、その足で清澄白河の清澄庭園と深川江戸資料館へ。一応東京都住民なので都下の施設訪問といえるかな。下旬のある日高台の七階にある我が家の窓から見える緑なしの都心の風景が八月の暑さで枯れ葉のように見え、緑が急に恋しくなり、奥多摩へ一人でドライブに出かけた。深くて濃い緑色の山と湖、涼しくて新鮮な風と空気、本当に良かった。もう一つ、レンタルDVDで映画を見た。イギリス人の監督ケン・ローチの作品で借りられるもの全てだ。彼の作品は社会性に富んでいて『エリックを探して』の他十数編の作品がある。最新作としては『ルート・アイリッシュ』イラク戦争を描いた作品だ。

8月中窓を全開して過ごし、クーラーを一度も付けていない。原子力発電はもう要らない。とても幸せな一月であった。感謝！（第194号・2012.9.16.）